

NAGAOKA

EVENT REPORT 2017/11/10

テクニクスサウンドトレーラー in ナガオカ本社（山形） リスニングイベント

去る 10 月 23 日月曜日、週末は台風が日本列島を過ぎ去り、少し風雨が残る山形県東根市のナガオカ本社。そこへ大型 SUV が牽引する銀色のトレーラーが現れた。それはテクニクスサウンドトレーラー。パナソニック社が、オーディオ、音楽をもっと身近に感じてもらえるよう移動式の試聴室を作ったのだ。室内には Technics（テクニクス）ブランドのオーディオ製品が置かれ、素晴らしい音楽が堪能できる。



テクニクスとレコード盤製造の東洋化成、そしてレコード針製造のナガオカ三社は、ハイクオリティ・サウンドの Made in Japan トリオとして、“レコード再発見プロジェクト”というチーム名のもと様々な活動を行っています。その活動の一貫として、今回はレコード針の生産現場ナガオカ本社にて、リスニング会が開催されたのです。



会場には、テクニクスサウンドトレーラーに携わるスタッフに喜んでもらおうと、テクニクスの歴代アナログプレーヤーを幾つか展示しました。ナガオカ社内のオーディオマニア・スタッフのコレクションの中から、過去のテクニクス製品を選び持ち込んでくれたものです。



そこには複数枚のレコードを重ねて装着し、順番に落ちてきて再生ができるチェンジャータイプのプレーヤーまでありました。非常に希少価値の高い製品で、開発者のチャレンジ魂を感じる逸品だと思います。これにはテクニクス関係者も大変驚いていて、試聴が始まる前から大いに盛り上がりを見せていました。



会場には NAGAOKA ブランドの商品も展示しました。天童木工とコラボしたヘッドホンスタンドや、ルビー材を使ったカナル型イヤホン R1、インシュレーターなどのオーディオアクセサリ製品。そしてレコード針、クリーナーなどのアナログ関連アクセサリを展示し、来社された方々も手にとって見ていらっしゃいました。







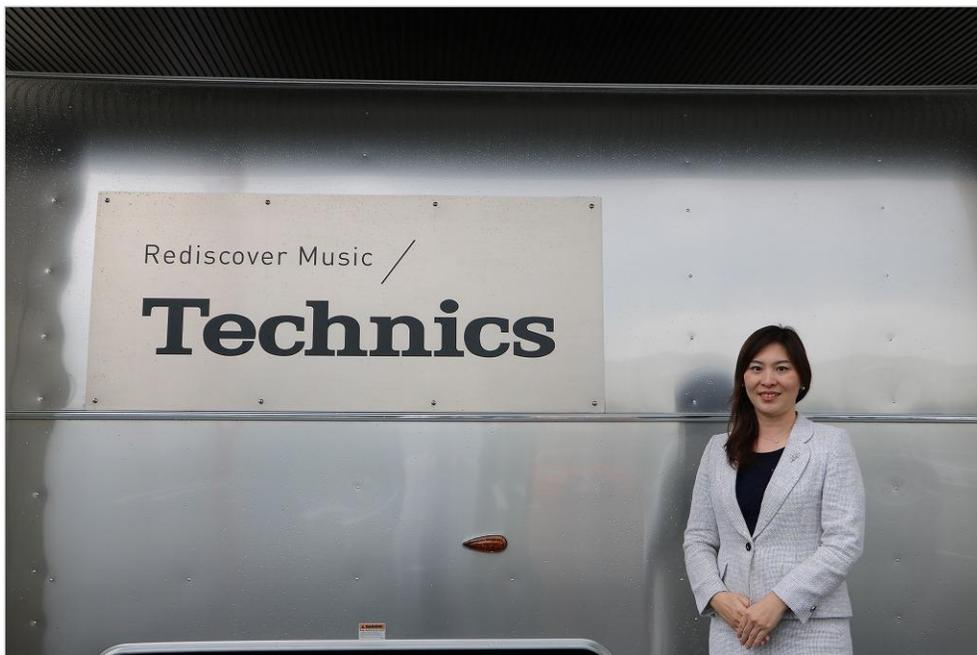
サウンドトレーラー内には、テクニクスの最新オーディオ機器が並び、ターンテーブルには2016年6月に限定300台で発売されたSL-1200GAEが設置されています。カートリッジにはナガオカ製のラインコンタクト針を使ったフラッグシップ「MP-500」が使用されています。



最近では、このようなスピーカーシステムの中で、体に感じる音響体験をしている方は少ないと思います。移動式とは思えない特別な空間の中、最新のテクニクスオーディオ機器から流れる音楽に浸ることができ、ナガオカ社員も至福の時を過ごすことができました。視聴後の社員からは「すごく良かった」と声が聞かれました。



試聴会の途中では、地元や全国区のテレビ・ラジオ局・新聞社を迎えての取材もあり、“レコード再発見プロジェクト”の三社が、高品質サウンドへのこだわりを語り、改めてスピリットのぶれのなさを確認することができました。



このサウンドトレイラーイベントがナガオカ本社で行われた事で、音楽を楽しむ事、レコード文化や産業を繋いで行くことの素晴らしさを改めて感じる事ができました。そして、多くの方々に知って頂き、楽しんでもらうために “これからもレコード針の生産を続けていきたい” そう思える素敵なイベントでした。

テクニクスサウンドトレーラースタッフの皆様、東洋化成スタッフの皆様、心から感謝申し上げます。

- Technics Sonud Trailer : <http://jp.technics.com/soundtrailer/>
- 東洋化成オフィシャルサイト : <http://www.toyokasei.co.jp/>
- ナガオカオフィシャルサイト : <http://www.nagaoka.co.jp/>

※株式会社ナガオカの一般公開はおこなっておりません